2007年春　第45号

2007年度タイ奨学金支援者募集中！

ダルニー通信

45

タイの奨学金

第一期奨学生のその後を調査

41 名のうち、村にとどまっている者 11 名

2007 年、日本民際交流センターは創立 20 周年を迎えます。ここまで継続できましたのは、ひとえにみなさんのご理解、ご支援があったからこそと感謝しています。

20 周年記念事業の一環として、タイ事務局では初代ダルニー奨学生 41 名のその後を調査しています。2006 年 12 月現在、41 名中 34 名の所在が判明し、ある者はウドンターニー県の村に残り、ある者はバンコクや都市部へ出ていったことがわかりました。村にとどまっている者は 11 名でした。すべての子が基本的な教育の機会に恵まれ、将来ふるさとの村のために役立つ人間になってもらいたいとの願いがこもった奨学金は、100%ではないにしても、その役割をはたしていました。

思いのほか多くの奨学生が村にとどまり、村の中心メンバーとなったり、学校の先生になったりして活躍しています。また、村を離れた元奨学生も、故郷を思う気持ちは変わらないようです。仕送りをして家族を支えたり、村出身者の面倒をみたりしている者もいます。どちらの場合も共通していえることは、奨学金支援者に心から感謝していることです。いまの自分があるのも奨学金があったからこそと考えています。そして、感謝の気持ちから、後輩や子どもたちのために自分たちが出来ることをしようと考え、行動している例も見受けられます（この調査の詳細が分かり次第、詳しくお知らせします）。

20 年間変わることなく奨学金に込められた願い、それに応えた奨学生の感謝の心が綿々と受け継がれ、次の世代へとバトンタッチされていきます。一人だけの力や思いでなく、世代や地域を超えた多くの人々の力や思いが集まり、新しい時代をつくり始めています。

初代奨学生。ウドンターニー県（1988年）

前列真ん中がダルニーさん。後ろが代表の秋尾（1990年代前半）

これからの 10 年、20 年

20 周年を迎える今年も、一口でも多くの子どもたちへ奨学金を、と募金活動に取り組んでいます。なぜなら、いまだに多くの子どもたちが奨学金を必要としているからです。当センターが一貫して注視しているタイ東北地方とバンコク首都圏や都市部との経済格差や、それに伴う教育格差は、残念ながら解消されていません。それどころか、格差は複雑化・多様化し、拡大するなかで、困難に直面している子どもたちが取り残されているのが現状です。

世界は 2015 年までに実現しようと「極度の貧困と飢餓の撲滅」や「初等教育の完全普及」などの８つの目標、いわゆるミレニアム開発目標を掲げましたが、あと８年ではその達成は困難とみられています。また、大規模の事業を実施する際は、貧困の定義や調査、教育関連のデータのとりかた次第では、少なからぬ数の子どもたちが対象からはずされ、無視されがちです。現状にあったきめ細かい配慮、子どもたちの立場に立った計画や事業の実施が必要です。

当センターは、すべての子どもたちが基礎教育の機会に恵まれ、自らの力で貧困から脱却できることをめざして、これからも出来るだけ長くダルニー奨学金を中心とした教育支援を続けます。そのために、対象地域の状況をしっかり把握し、これからも本当に必要とする子どもたちへ皆さんの大切な奨学金を届けるつもりです。

2007 年は日泰（タイ）修好 120 周年でもありますが、その中で皆さんの奨学金は 20 年にもわたり民と民との心をつなぐ架け橋として存在し続けました。そして今後とも平和への願い、人への思いやりや理解などやさしい気持ちを人類が忘れない限り続いていくことでしょう。

元奨学生からの手紙

15年前のクリスマスカードを今も大切に

「村で最初で唯一の中学生でした」

タイ事務局（EDF）スタッフの米国留学時代の友人が元奨学生だったことが判明し、早速その友人、ブーンマスさんに連絡をとり、ドナーだった大江さんに手紙を書いてもらいました。ブーンマスさんは地元の大学を卒業後、文化交流プログラムに合格して米国に滞在して、ホストファミリーの財政的支援などで大学院に進学し、MBA（経営学修士）を取りました。

米国の大学院卒業時のブーンマスさん（左）と、大江さんに送られてきた奨学生時の写真（下）

大江房子　様、

私の名前はブーンマス・スワンです。15 年前、大江様のご支援で中学校に通った奨学生です。これまでお礼を述べる機会がなかったので、この機会に是非お礼を述べたいと思い、手紙を書きました。お送りいただいた奨学金で中学校に通うことができ、どんなに感謝しているか、そしてその結果、その奨学生（つまり、私）が現在、どのような人生を送っているかについて是非、大江様にも知ってもらいたいと思ったからです。

小学校の頃、他の子ども同様、私にも夢がありました。先生になりたかったのです。でも夢を心の中にじっと隠したままでした。というのも、私は貧しい農村に生まれましたが、その当時、村で中学校に行く子どもは１人もいなかったのです。中学校に行けなければ先生にはなれません。小学校の最後の学期に、両親が「お前を中学校に行かせる余裕はない。他の子どもと同じように、大きな町の工場で働くんだよ」と言いました。その瞬間、これで夢も途切れてしまったと感じ、がっかりしました。しかし、しばらく経って、先生から「日本からの奨学金が受けられたよ」と言われました。私は村で中学校に行く初めてで、かつ唯一の子どもでした。中学校時代に、学校のダルニー奨学金担当者から奨学金提供者が「オオエフサコさん」と知らされ、この名前を心に刻みました。

大江様の支援を受けた中学校の 3 年間、他の奨学生と仲良くなり、奨学金を引き出しに銀行へ行くときはいつも一緒に歩いていきました。感謝の手紙を英語で書くときに一緒に考えながら書き、日本に送ったこともあります。奨学金で学費のすべてをまかなうことはできませんでしたが、私のような貧しい家庭にとっては大変助かりました。中学校最後の年、大江様からクリスマスカードを受け取りました。今でもそのカードを大切にし、そのカードを見て大江様から受けた支援を思い出しています。

中学卒業後に父に仕事が見つかり、地元の高校を卒業した後、さらに奨学金を得て、大学に行きました。その後、米国に滞在し、昨年 MBA を取り、今は多国籍企業の経営ソフト会社のトレーニング・アドバイザーとして働いています。米国滞在中、ワシントン DC の通りで子どもたちが何かの募金のためにジュースを売っているのを見ました。彼らを見た瞬間、私は子どもの頃の生活の苦しさを思い出しました。ジュースを売って得るお金は少額かもしれませんが、生活に困っている者にとっては、とても貴重なのです。大江様の支援で私の人生が変わったように、です。もし支援が無ければ、今の私はないでしょう。

改めて、チャンスを提供してくれた大江様に私の心からの感謝を捧げ、大江様のお幸せとご健康を願っております。

大江房子さんの感想

感謝の気持ち、私の方こそ

突然のブーンマスさんからのお手紙でびっくりしました。15 年前の私は若く元気で何事にも積極的でした。ダルニー奨学金に参加させて頂いたのは、主人が会社の仕事がアラブからタイに変わり、タイの人は人懐っこく親切で人情味あふれていると言っていましたので、その国で困っている人がいたら、何かのお役に立てればと思ったからです。私が忘れていました 15 年前のことを覚えていて下ったり、今でもクリスマスカードを大切に持っていて下さったり、私の方が感謝の気持ちでいっぱいです。

タイ事務局レポート　奨学金を待つウット（小６）

熱い風と通り過ぎる夢

「せめて高校を卒業させてもらったら、自分で･･･」

季節の変わり始めの２月。暑い風が冷たい風と入れ違いにゆっくりと入ってきました。それは、生徒に夏休みの始まりを知らせます。もうすぐ多くの生徒が卒業し、より高い教育を受けるために良い学校を探し始めます。しかし、進学することがただの夢でしかない生徒も少なくありません。

スリン県の小学校に通うウット（ウォーラウット・インサガー、写真右）も進学したいという夢を持つ子どもの１人です。現在、同校の六年生で、あと数ヶ月で小学校を卒業しますが、まだ中学校に進学できるかどうかはわかりません。

ウットは次男で、15 歳の兄ウィルットと 10 歳の弟ワットがいて、皆同じ学校（小中併設校）に通っています。彼らの両親は貧しいため、他の多くの東北地方の親たちと同じように都市部に出稼ぎに出ています。それで３人の子どもは叔父に預けられ、親子はお互いにほとんど顔を合わせる機会がありません。

●　貧しいことが恥ずかしくて・・・

叔父の小さな家には、叔父の妻と子ども２人がいる他に、ウットの祖父も叔父を頼って一緒に住んでいるので、この家には全員で８人も住んでいることになります。ウットは炊事や皿洗いなどの家事をできる限り手伝い、叔父を助けています。毎日、ウットは叔父から３～５バーツのお金をもらって学校に行きます（その金額は、その日に叔父が日雇いの工事現場の仕事でいくら稼いだかによります）。ウットの家は学校から近いのにもかかわらず、学校に行くお金がなかったり、着る制服がなかったりするため、時々学校を休むことがあります。他の貧しい子どもと同じように、ウットも貧しいことが恥しいので学校に行きたくないのです。しかし一方で、ウットの成績はかなり良く、特に算数は得意科目だそうです。「算数は難しいけど、好きです。学校ではコンピューターの基礎を勉強する授業があって、僕はその授業が一番好きです。なぜなら、多くの新しい知識を得ることができるからです」。

●　夢を捨てず、自分を励まして

今のウットの夢は、進学して高校を卒業することです。家に十分なお金がないため、ウットにとって大学進学などは遠すぎる夢なのです。ウットは「僕は高校を卒業させてもらえることができたら、十分良い仕事を探せると思います。でも今は小学校を卒業したら、次に中学に進学できるかどうかもわからない状態です」。

タイ東北部では、経済的な貧しさのために中学就学を諦める子どもがまだ少なくありません。小さな子どもの夢が、冷たい風と共に連れ去られてしまおうとしているのです。

中学就学に一縷（いちる）の望みをかけて、ウットはダルニー奨学金を申し込みました。ウットは今日も家事をしつつ、奨学金で中学校に通う自分の姿を思い描きながら、熱い風に負けまいと自分を励ましています。

※この記事は、昨年３月、タイ事務局（EDF）が発行したダルニーニュース第６号から一部手直しの上、転載したものです。ウット君は無事、奨学金選考を通り、現在、スリン県の中学校に通っています。

新聞販売店の書き損じはがき収集

折り込みチラシを作ってお客さんに呼びかけ

約 3,500 枚の書き損じハガキを収集

千葉県で朝日新聞の販売店を経営する堀口英榮さんは、お客さんのネットワークを活用して、これまで幾度となくボランティア活動を提案し、実践してきました。そして紙代・インク代・原稿作成代すべて含めて 1 枚 10 円程度で織り込みチラシを作成できる印刷機を導入したのを機に一昨年末、書き損じはがきの収集活動に取り組みました。

同店から新聞購読を契約している約 3,400 軒のお客さんがある朝、新聞を開いてみると、中に同店からの折込広告が入っていました。見出しは「子供たちのためにチョット良いことしてみない！第 2 回書き損じはがきキャンペーン」。回収は翌月末の集金時でした。翌月末、従業員の方が集金に伺うと、多くの方が書き損じハガキを提供してくれました。「2～3 枚しかないけど、それでボランティアになるの？」とか「古いはがきを集めてきたけれど、この企画はすばらしい。応援させてもらうよ」と言って 1 枚 4 円の大切なはがきを提供してくれたりしたお客様がいました。中には「たくさんあるから取りに来てほしい」と電話で連絡された方も、また、お店に直接届けてくれた方もいました。合計で約 3,485 枚。その他、テレフォンカードもあり、合計すると 15 口分（15 万円相当）

堀口夫妻

の奨学金になりました。朝日新聞社の販売担当者や次長さんも「この企画はすごいですね。もう少し大きく広げるといいですね」と堀口さんの活動を褒めてくれたそうです。

堀口さんは 22 年間、新聞販売店を経営してきました。その間、料理教室や写真展など、地域のコミュニティ作りに様々なアイデアを出しては実行し、また、老人ホームへの寄付や慰問など、いくつかのボランティアもしてきました。こうした同店の姿勢がお客さんに伝わっているせいか、何かに取り組むとすぐに協力してくれる関係ができています。堀口さんの「少しでも社会に貢献しよう」を合言葉に、同店の従業員の方もこうした活動に積極的に取り組んでいます。「うちの一店だけでこれだけのはがきが集まるのですから、本社で取り組めないものですかねえ。そのように本社に訴えたのですが。そうすれば、どれだけの子どもが希望を持ち、学校に行けるか・・・」と語る堀口さん。社会貢献に対する彼のアイデアと情熱は、まだまだ湧き続けています。

イーココロ！の会員登録や資料請求などで、ダルニー奨学金の広報･募金にご協力ください！

http://ekokoro.jp/

イーココロ！は、クリック募金やアクション募金という方法で、無料で、国際協力NGOに募金できるインターネットのサイトです。日本民際交流センターもこのイーココロに登録しており、以下の 3 つの方法で、当センターへの広報支援や募金ができますので、ご協力をお願いします。

★ 日本民際交流センターの紹介ページ　**http://ekokoro.jp/ngo/minsai/**

① 会員登録　**https://ekokoro.jp/regist/signup.php**　イーココロ！に会員登録し、支援先に当センターを選択するだけで、「NGO人気ランキング」上での当センターのランクが上がります。**http://ekokoro.jp/ngo/all.html** は、会員の支援者が多い順番で表示されますが、07 年1月末で、残念ながら、当センターは 72 団体の内 47 位。人気ランキングの上にあればあるほど、サイトにアクセスした人の目に止まりますので、是非、会員登録を！

② ポイントGETクリック募金　**http://www.ekokoro.jp/cb/**　イーココロ！に会員登録し、募金先NGOを当センターに指定後、**1日1回（のみ）1円のクリック募金が出来ます。募金金額はスポンサーが負担！**

③ アクション募金　**http://www.ekokoro.jp/idxca-.html**　資料請求をするだけで、民際への募金になります。他には、ショッピング募金 **http://www.ekokoro.jp/idxcs-.html** もあり、民際センターを指定していただければ、ご購入金額の数%が当センターに寄付されます。問い合わせは、info@minsai.org　イーココロ！係まで

書き損じはがき支援校の取り組み

全校生徒数 75 名で約 500 枚のはがきを収集

兵庫県市川町立瀬加中学校

瀬加中学校では 2003 年度より生徒会活動の一つとして、ダルニー奨学金への支援活動を行っています。ダルニー奨学金では毎年支援している奨学生の証書と写真が届き、自分達が支援している相手の顔が見えます。そのため、生徒達と奨学生が一対一で結ばれていることがとても実感しやすいと言えます。本校のような少人数の学校でも生徒が気軽に参加でき、書き損じはがきやテレホンカードを集めることで、社会奉仕と国際協力ができる活動であるという理由から取り組みを開始しました。

書き損じはがきやテレホンカードの回収活動は、毎年 12 月から 1 月にかけて、生徒会本部が中心となって行います。まずは、冬休み前に生徒会新聞に記事を載せて呼びかけを行い、年賀状の書き損じはがきを捨ててしまわないように生徒や保護者に依頼しておきます。そして、1 月に入ると再度、生徒会新聞で呼びかけを行います。本格的な回収活動は年賀状くじの当選発表が終わる 1 月中旬に 2 週間行います。各学級で総務委員が毎日呼びかけを行うとともに、回収枚数を生徒会新聞に載せ、未回収の書き損じはがきが家に残っていれば学校に持って来てくれるように呼びかけをします。

■生徒の意識を高めるために

ダルニー奨学金への支援活動を始めた 4 年前は、全校生徒が 95 名でしたが、少子化等の影響などで生徒数は年々減少し、昨年度は 75 名、そして現在は 61 名です。活動を始めた 2003 年には地域を回ってはがきの回収を呼びかけたこともありました。また、朝日新聞に活動の様子が掲載され、それを読まれた方々から書き損じはがきを学校に送って頂いたこともありました。

生徒の意識を高めるために、毎年、タイやラオスから写真と証書が送られてくると、全校集会で紹介するとともに、額に入れて校長室前に掲示をします。生徒たちは自分達が支援している奨学生の写真を常に見ることができ、自分達の活動の実感を確かめることができます。

昨年度の活動を支えた現３年生全員。ハート型の青い地球に両側から手が伸びている背後のモザイクアートは、昨年の運動会で「絆」をテーマに生徒が作ったデザイン。

■ ダルニー奨学金を瀬加中の伝統に

本校では生徒数が少ないこともあり、毎年、回収目標枚数は 250 枚（一人支援分）にしています。しかし、昨年度は前年度の未送付分もあり、早期に目標を超えたため、500 枚を目標にして「あと○○枚、集めよう」と呼びかけるチラシ等も作り、こまめに繰り返して行い、目標の 500 枚を集めることができました。昨年度はこれまでの先輩達の実績を大幅に上回ることができ、生徒たちの喜びはひとしおでした。今後も瀬加中学校の伝統として、ダルニー奨学金への支援活動を続けていきたいと思います。

瀬加中学がこれまで支援した奨学生数

年度	支援した奨学生数（すべて C タイプ）
2003	1（タイ）
2004	4（タイ）、1（ラオス）
2005	1（ラオス）
2006	2（タイ）

まだ間に合います！

2007 年度ラオス奨学金向け書き損じはがきの送付締切
はがき：5 月末
切手（はがきを交換）：6 月末

タイ自転車旅行参加者が小学校で体験談を披露

山間の小学校でタイ旅行体験を話す

一昨年、タイ東北地方ノーンカーイ県への自転車旅行に参加された伊藤忠雄さん（新潟県在住）が昨年 10 月、長野県の鬼無里小学校で、旅行の体験談を披露しました。

伊藤さん（右）と鬼無里小学校の生徒たち（左）

長野県に鬼無里（きなさ）という“おやき”で有名な村がある。ごく最近合併して長野市鬼無里となった。その村に全校生徒 95 名ほどの鬼無里小学校がある。以前に一度、校長先生からお招きを受けて好きな絵の話をしたことがある。今回は一昨年、タイ東北地方ノーンカーイ県のバンナケオ小学校で自転車修理教室を開いた話を子ども達にしてほしいとの依頼があり、再度訪問した。

当日、学校に着くと玄関に歓迎の言葉が書いてあった。校長室に案内される途中、廊下で会う子ども達は大きな声で“コンニチハ”と挨拶してくれる。大きな給食室に全校生徒と先生が集まっている。そこでタイの子ども達の写真をプロジェクターで映しながら、奨学金がなければ学校に行けない子どもたちの話をする。生活は苦しく、暑い中、長い通学路を歩いて通わなければならない子どもや自転車教室に熱心に参加した子どもたちの話をした。鬼無里小学校の子どもたちは最後まで私の顔をじっと見つめて熱心に話をきいてくれた。私の話にかなり興味をもってくれたようで、校長室に帰る途中、後ろから追っかけてきてタイのことを色々質問される。

その後、子ども用の椅子に座り、生徒や先生と一緒に給食をいただいた。タイで心のこもったもてなしをうけたことを思い出し、そのときと同じような感銘を受けた。帰り際に 2 人の女の子が「お礼です」と言って、学校で先生と生徒が一緒になって作ったほうれん草をプレゼントしてくれた。バンナケオ小学校で感じた温かい雰囲気を鬼無里小学校にも感じて、同校を後にした。

● 旅行を企画・随行した民際センターの児玉諮問委員「パンク修理の実践を手取り足取り 3 時間。参加者の生徒を手招きして呼び寄せ、素晴らしい笑顔とジョークで生徒たちの笑い声が山間に木霊しました。最後に、組み立ての完成した自転車に伊藤さんがまたがり、校庭に踏み出し、生徒にバイバイをするシーンは爆笑を誘いました」

協力企業紹介

社員の手作りハーブガーデンが、子どもたちの笑顔に変わる

NECソフト株式会社

NECソフトでは、2006年度から「チャリティーハーブガーデンプロジェクト」をスタートしました。社員の手により造園したハーブガーデンが駅前の景観を美しくし、爽やかな香りで新木場通勤者を癒します。ただ、それだけではありません。社員が刈り取ったハーブで加工製品を製作・販売し、売上金はすべてアジアの子どもたちのため『ダルニー奨学金』に寄付します。こんな欲張りで心躍るプロジェクトが「チャリティーハーブガーデンプロジェクト」です。

このプロジェクトは、緑化活動支援専門特定非営利活動法人である Green Works さんと協働で行っています。具体的な実行プロセスを説明しますと、まずプログラムと実施計画案を東京都港湾局に提示し、土地の使用許可を得ます。次に、新木場駅前の緑地帯にハーブガーデンを施工します。スコップとユンボーで土を掘り、ガーデンの枠組みを完成させます。そして、Green Works さんのアドバイスをいただき、社員有志がハーブを植栽・収穫し、ハーブの加工を行います。最後に、完成したハーブ加工品を販売し、その売上金を『ダルニー奨学金』に寄付します。

このプロジェクトに参加することにより、環境保護への意識が高まり、地域とのつながりや社員とのコミュニケーションが向上します。そして、年々成長していくアジアの子どもたちの笑顔が私たちの社会貢献マインドをさらに醸成してくれます。

これからもNECソフトは、身近な地域貢献が、気がつけば国際協力へと広がっていく「地域から世界へ」を合言葉に、「チャリティーハーブガーデン」という夢のある物語をふくらませていきます。

ハーブを植える社員（右）とハーブ加工品

タイ･ラオス研修旅行の魅力、それは、人と人との触れ合い

2006 年の研修旅行も事故や病気もなく無事遂行できました。これもひとえに参加者のご協力のおかげと感謝いたしております。

引き続き 2007 年も「安全と感動の旅」を皆様にご案内できますよう日本・タイ・ラオス事務局一同力を合わせてまいります。

皆さんもぜひ一度ご参加ください！

2007 年間スケジュール（予定）

5 月	タイ	5/26～6/2	シーサケット県
10 月	ラオス	10/21～28	サ ラ ワ ン 県
11 月	タイ	下　　旬	ウドンターニー県

＊ 11 月研修旅行では、11 月 23 日（金）にバンコクで実施予定の民際グループ創立 20 周年記念式典にも参加していただく予定です。

上記以外にも会社、団体、学校などで独自の旅行を組むことができます。担当者（本田・冨田）までご相談ください。

研修旅行は相互交流の場

一般の観光旅行では、次々に名勝を訪問して、たくさん買物もしたけれど、現地の人とまったく接していないことがありませんか？ 民族、文化、衣食住、そこには未知の世界が広がっているのに、何も理解できないまま帰国することはありませんか？ 彼らはどのような夢や課題を抱えているのでしょう？ これでは、現地の人達から「日本人は大勢で慌しく買物をして帰る金持ち」と見られるのも仕方ありませんね。研修旅行は、このような一方的に「モノ」を見たり得たりするのではなく、「人と人」とが触れ合う相互交流の場です。

ダルニー奨学金研修旅行の特徴

● 村での民泊

村では、数人に分かれて村人の家に宿泊します。日本のように電化製品に囲まれた便利な生活ではありませんが、しばしば高床式の住居に蚊帳を吊って寝て、朝は家畜の声で目覚める自然そのままの生活です。食事は、村人が心を込めて作ってくれた郷土料理。日本ではなかなか食べられません。

民泊先で家族と共に郷土料理を楽しむ（タイ・サコーンナコーン県）

● 学校交流

受入れの中心となるのが村の学校です。授業への参加や教師との会合、生徒たちとのふれあいを通して、子どもたちを取り巻く環境が良くわかります。珍しい外国人に恥ずかしくて近寄れない子、興味津々に瞳を輝かせて話しかけてくる子と様々です。

言葉は通じなくても笑顔は万国共通！（タイ・ウボンラーチャターニー県）

● 奨学生との面会

毎年送られてくる奨学生の可愛い写真。一度会ってみたい、励ましてあげたいと思われる方も多いようです。研修旅行では、訪問県内に奨学生がいる場合、呼び寄せて面会することができます（希望者のみ）。貧しい生活の中でも、家族のために役立ちたいというけなげな気持ちが伝わってきます。

多くの方のご参加をお待ちしています

5 月タイ研修旅行の参加者募集

日程：5 月 26 日（土）～6 月 2 日（土）

訪問県：タイ国シーサケット県（南部をカンボジアと接し、クメール遺跡が点在する静かな町）

参加費：一人 170,000 円（成田からの往復航空券、団体行動全経費。航空券に付帯する燃油特別付加運賃等は除く）。バンコク集合のコースもあります。

資料は、宛先を記入し 90 円切手を貼付した返信用封筒を同封の上、3 月末日までに郵便にてご請求ください。電子メールの場合は、info@minsai.org まで。

チャリティ英会話でタイの中学生を支援
受講生が研修旅行に参加し、その中学生に面会

京都外大西高等学校教諭　前田久夫

2002 年 11 月 30 日に第 1 回の「土曜英語講座」を開講して丸 4 年を迎えました。これまでタイやラオスの恵まれない子どもたちに 50 万円の教育支援を行うことができましたことは、受講者、民際センターの方々、学校関係者などのご協力のお陰と感謝いたしますと共に、今後も事情が許す限りこの講座を継続していきたいと考えております。

思い起こせば、この講座開始のきっかけは、本校のジュナリン・バネズ教諭（在日カナダ人）の提案でした。かねてから、私は教師がボランティア活動を行うことの重要性を痛感していた関係で、即座に彼女の提案を受け入れて開始の運びとなりました。2 週間に 1 度（毎月第 2・4 土曜日）の開講でどれだけの効果があるかわかりません。しかし、1 回 2 時間の講座時間をフルに活用し、非常に積極的で情熱的な約 15 名の受講生の会話力、語彙力、文法力、リーディング力などを伸ばすため、主に自作のワークシートと市販の教材を利用しながら、和気藹々とした雰囲気で活動を行っています。

受講者。前列真ん中が前田さん

チャリティ英会話受講生の仲本さん（右端）と北村さん（左端）。真ん中が英会話で支援している奨学生

■　奨学生に会った仲本恵美子さんの感想

タイ研修に参加して、京都外大西高校の「Saturday English」が支援している奨学生ラウィーポーンさんとノンウェーン村の子ども達に会いました。奨学生に「遠い村から会いに来てくれて有り難う」と言うと、「初めての日本人を前に胸がドキドキしている」と言っていた彼女の顔に笑みが浮かびました。前田先生や受講生の写真を見せながら学ぶことの楽しさを話すと、「将来の夢は医者」と言っていました。「夢が叶うといいね。応援しますよ」と伝えました。

今回の感動的な面会で、やり甲斐のある教育支援を更に多くの人々に伝えたいという思いが一層強くなると同時に、中学生への奨学金は社会への自立の助けになっているという大事な発見ができました。

お知り合い･ご友人をご紹介ください！

1 人でも多くのタイやラオスの子どもたちが学校で勉強できるように、ドナーの皆さんのお知り合いやご友人に、是非、ダルニー奨学金を紹介してください！

送付先のお名前･ご住所･ＴＥＬをお知らせ頂ければ、当センターのパンフレットを含む資料一式を直ぐに、お送りします。ご紹介いただく方は、1 人でも 10 人でも、それ以上でも大歓迎です！

電子メール、ＦＡＸ、ＴＥＬ、ハガキなどで、送付先の情報を事務局までお送り下さい。

ダルニー通信 12 ページ下の囲みにある事務局の連絡先を参照。

支援の輪を広めたい

民際の ENGLISH ホームページが充実！

English Speaker のドナーの方、および、新規ドナー増加のために、民際の English ホームページを定期的に更新中！

タイ･ラオス･カンボジアの奨学金の説明の他、「ダルニー通信」一部の英訳や決算報告(Financial Report)も紹介。例えば、Real Lives の Newsletter 各号数をクリックすれば、支援国の奨学生のエピソードが紹介されています。また、個人ドナーIndividual Donors や企業･団体ドナーCompany/Group Donors 紹介ページもあります。

ドナーの方 3 名がボランティアで英訳をしてくださっていますが、現在、English Webをリンクやブログ等で広めてくださる「広報ボラ」を募集中です！ 日本語の民際ホームページで資料請求する方の中には、リンクやドナー紹介で、という方もかなりいらっしゃるので、この「支援の輪の広がり」をEnglish Webでも実現できれば幸いです。問い合わせはinfo@minsai.org まで。

English Web は http://www.minsai.org/ の右上の English をクリック。

NGO と企業の協働によるチャリティ交流会

第 5 回ワールド･カルチャー･フェスティバル

1 月 19 日、キッコーマン（株）とアサヒビール（株）と花王(株)の 3 社（主催）が、日本民際交流センターを含む 4 つの国際協力 NGO と協働で、「食を通じて国際協力」をテーマに第 5 回ワールド・カルチャー・フェスティバルを開催しました。

NGO4 団体が各々タイ、ラオス、カンボジア、ウガンダ料理を作り、上記 3 企業は、自社社員および他企業社員の方たちに 1 人 1,000 円の参加費で、「アジア・アフリカの料理を食べながら、NGO 活動の理解を深めて国際貢献を」と声を掛けてくれました。

当センターのブースでは、パンフレットの配布や、様々な物品を販売。中でも、（株）アライドコーポレーションから「売上げは奨学金に」と寄付して頂いた「タイの台所」（タイ料理の食材・調味料セット）は完売。また、タイ布でドナーが作ってくれたトートバックや巾着もほぼ完売。ただし 07 年カレンダーは売れ残り残念！

参加者は約 100 名。参加費の合計は NGO4 団体に分配され、民際分はダルニー奨学金に充てました。

民際センターのブース。「タイの台所」（写真内の右側の袋）は完売。民際の07カレンダーは十二個売れました

ファッションショーも好評。料理を担当したドナー（右２人）はモデルとしてタイ衣装を着用！

民際の職員１名とドナー3 名の方が作った春雨炒めとおこげのココナッツソース添え（写真上）は大好評！ブースで料理を配りました（左下）

3 年連続で チャリティコンサートを開催

24 口分のタイ奨学金に

2006 年 10 月 22 日、ヴァイオリニストの小谷公子さんが都内の「めぐろパーシモンホール」で、ダルニー奨学金支援のために 3 回目のチャリティコンサートを開催しました（民際センターとの共催）。

小谷さんのお知り合いのアーチストにも参加して頂き、ブラームスやモーツァルトの曲などを演奏。また、今回はマリンバ演奏家の参加で新たな音色を愉しむことができ、来場者に満足して頂きました。チャリティの結果、経費分を差し引き、タイの子ども 8 人が 3 年間中学で勉強できる奨学金になりました。小谷さんは、1 人でも多くの子どもが奨学金で学校に行けるよう来年以降も続けたいと思っていますので、ドナーの皆さんの次回のご参加をお待ちしています。

「力」仕事で子ども達を応援

宇野沢幸雄

1 年余前から、データ入力のお手伝いをさせて頂いております。私自身、大分前からドナーとなり子ども達の応援をさせて頂き、奨学金証書の到着を楽しみにし、彼らの将来は・・・と思いを馳せる事を楽しみにさせていただいております。

さて、事務局内で作業しておりますので、聞き耳を立てている訳では無いのですが民際内のいろいろな状況が断片的ではありますが、見えてきてしまいます。決して多くは無い職員の方達で奨学金の確保・拡大や質の向上を図るため、各位が多岐・多量の業務をこなし、かつ、この状況はより進展しつつあるのではと思えます。そんな中で、力仕事でこなせる部分を少しでも対応することで事務局の方達の支援をさせて頂き、子ども達への奨学金授与の応援をしたいと考えています。

私的には、ウオーキング／トレッキング／サイクリングの３ｉｎｇにのめり込み、また昔録り貯めたベータテープの DVD 化や YouTube（動画共有サイト）等からの音楽収集に明け暮れている暇人です。

新規ドナー連絡会の紹介

● **ダルニー稲門会**：「稲門会」は早稲田大学卒業生の集まりです。ダルニードナーの中に早稲田の卒業生も少なくないかと思い、ひとつ、OB が集まってダルニーを盛り上げようと連絡会を作ることにしました。事務局は民際センターです（担当は民際スタッフの吉川）。ドナーで、かつ早稲田 OB の方、ぜひご参加下さい。また、民際センター事務局は大隈講堂の目と鼻の先なので、大学を訪れた際には是非、お寄り下さい。（世話人　吉川次郎：TEL03-5292-3260）

既存ドナー連絡会の活動

● 新潟ダルニー連絡会：新潟ダルニー連絡会世話人の赤石さんがラオス研修旅行で撮ってきた写真を持って「ぎゃらりい・茶ろん杜々」で写真展を開きたいと来店されました。

連絡会ニュース

そこに、ちょうど作曲もするピアニストの中林由美子さんが居合わせました。中林さんは、去年からチャリティーコンサートを開き、中越地震の復興支援金に当ててきました。今年は恵まれない子どもたちのためにチャリティを開きたいと考えていたときだったので、帰国直後の赤石さんの話を大変興味深く聞き、写真に見入ってしまいました。田園地帯を流れるメコン川や自然の中で生き抜く子どもたちの写真を見てメロディがひらめき、「流るるメコン」が出来ました。これでチャリティコンサートは決まりました！

コンサートは 1 月 11 日の夜、開

左から3番目が中林さん、右三人はドナー。

催されました。ピアノやキーボード他に朗読やコカリナ演奏の賛助出演があり、とても楽しめる内容でした。会場にはラオスの子どもたちの写真展示もあり、休息時間に見てもらいました。

今回の催しで 2 人の奨学生が学校に通えそうです。中林さんは、来年もダルニー奨学金のためにコンサートを開きたいと話していました（新潟ダルニー連絡会、ぎゃらりい・茶ろん「杜々」店主　今溝恵子）

長野県佐久平でのダルニードナー＆連絡会の集い

実りある議論ができ、ダルニードナーの底力を感じました

佐久平ダルニー連絡会　柳澤光一

2006 年度ドナー会議「信濃で奨学生自慢とおらが蕎麦」が開催され、有意義なディスカッションで大いに盛り上がりました。

● 各連絡会・個人の活動報告

各参加者が奨学生自慢と活動の内容について報告。今回も、山梨県立ろうあ学校の生徒さんが、学校での取り組みを紹介してくれました。活動の多様化を感じました。（写真右上）

● 懇親会

参加者からも参加できなかった尼崎ダルニードナー連絡会や新潟ドナー連絡会など他の連絡会からも、美味しいお酒が届き、銘酒の勢ぞろい。主催のわが連絡会からは鮎の甘露煮、ハヤのから揚げなど旬のもので歓迎。お酒とともに奨学生の自慢話、イサーン（タイ東北地方）に企業を誘致し働く場所を確保するにはどうすれば・・・など等、議論は翌朝まで続き、ダルニードナーの底力を感じました。この熱心さがあれば、連絡会単独のイサーン研修旅行も夢ではない！ドナー全国大会のメインは参加者のボルテージが最高潮に達する「懇親会」にあると実感しました。（写真右下）

● 畑さん（遠州ダルニー連絡会）の講演

奨学生に対する畑さんのかかわり方をテーマにディスカッション。「顔が見える」からこそ関わり方に多様性があるのだと思います。ダルニー奨学金はその子の将来だけではなく、その子が生活している地域を見据えた支援をめざしているし、そうなってほしい・・・参加者の方が皆、そんな気持ちをもっていることが再確認できました。ダルニー奨学金支援が、そのように考えるキッカケになったと思います。

なお、古着もたくさんの方から提供いただきました。尼崎ダルニー連絡会からはベルマークをいただきました（集めるのに苦労したのではないか、と思います）。これらはすべて山梨ろうあ学校に寄付しました。ご協力を有難うございました。来年は静岡での開催になります。次回も、たくさんの方の参加をお待ちしています。

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。ご利用につきましては、下表のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。またご意見、ご希望、ご投稿もお待ちしております。

	項　目	対象	希望資料･依頼	依頼方法、同封する物など	送料	備　考
1	募金箱を設置したい	タイ・ラオス	取扱説明書及び申込書	電話、FAX メール依頼可	実費	随時受付。お知り合いのお店などにおいていただけるとありがたいです
2	毎年忘れず奨学金を送金したい	タイ	自動払込申込書	電話、FAX、メール依頼可	不要	新奨学生の支援にご活用ください
3	奨学金や現地のビデオが見たい		展示パネル ビデオ	電話	実費	1.「心の通う国際協力」(10 分) 2.「タイ奨学生感謝の来日」(NHK,20 分)
4	奨学生からタイ語で手紙が来た	タイ		手紙原本送付	80 円切手 4 枚	手紙の翻訳 (タイ語→日本語)
5	奨学生の氏名をｶﾀｶﾅで読みたい	タイ	生徒名のカタカナ表記	往復はがきで請求	不要	登録番号と生徒番号を明記して下さい
6	奨学生に負担をかけず文通したい	タイ	タイ切手セット (12 回分) 千円	代金 返信用封筒	80 円	代金は郵便定額小為替か現金でお願いします
7	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ希望		ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ登録票	電話	不要	
8	個人で現地を訪問したい	タイ	奨学生訪問の手引き	返信用封筒を送付	80 円切手	随時
9	地域や仲間で連絡会を作りたい		ﾀﾞﾙﾆｰﾄﾞﾅｰ連絡会の手引き	返信用封筒を送付	80 円切手	随時
10	書き損じはがき･未使用テレカ収集	タイ・ラオス	同ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ 案内	返信用封筒を送付	不要	はがき送付用紙付き
11	タイ･ラオス奨学金のリーフレット	タイ・ラオス	リーフレット	電話、FAX、メール依頼可	不要	随時。ダルニー通信 42 号 5 ページ関連記事 (ダルニー通信は順次ホームページに掲載しています)
12	奨学金のパンフレット		パンフレットは振替用紙付	電話、FAX、メール依頼可	不要	随時。タイ･ラオス (共通) とカンボジアの 2 種類
13	はがき･テレカ収集箱設置	タイ・ラオス	折り畳式収集箱を送付	電話、FAX、メール依頼可	実費	送料をご負担いただけると助かります。1 箱 200 円。(在庫わずか)
14	ﾊﾞｻﾞｰ等でﾊﾝﾃﾞｨｸﾗﾌﾄを売りたい	タイ		電話	送料実費	在庫に限りがございますので、お早めにお問合せください
15	カレンダー、ポストカードの購入			電話･メールで申し込み	実費	随時。送料は数量次第です。ダルニー通信 43 号 9 ページに関連記事
16	使用済みインクカートリッジを集める		資料 (メール可)		80 円切手	ダルニー通信 37 号 4 ページと 38 号 9 ページと 41 号 10 ページに関連記事
17	奨学金の説明を聞きたい		事務局説明会 (無料)	毎月第 2 水曜(12:30～)、第 3 火曜(18:30～)。質問にもお答えいたします。必ずご予約ください。遠方の方は交通費実費にて派遣可能。		

編集後記：時々、人前でダルニー奨学金について説明し、支援をお願いします。人前でなかなかうまく話せないのですが、それでもその拙い話を聞いて「支援をしよう」と思ってくださる方がいます。一方、そうは思わない人もいます（残念ながら、後者の方が多いのですが）。話し方や話す内容の反省もさることながら、前者と後者の違いは何だろうと考えることがあります。長時間の自動車レースで何回もアフリカを走ったフランス人のレーサーが、レース中にアフリカの人々が水に困っているのをしばしば見て、引退後１人ＮＧＯを立ち上げ、毎年、車で水を届けているという話を知人のフランス人から聞きました。たくさんのレーサーが同じ光景を見たのに、なぜその人だけ水を届けようと思ったのでしょうか？思いやり？想像力？憐憫の情？先進国に生きる人の義務感？宗教的信念？・・・他人の心の中をのぞくことは不可能ですが、私の経験から「支援をしよう」と思ってくれた人は一様に穏やかで優しい顔をしている、という印象をもっています。（冨）

ダルニー通信　第 45 号　　2007 年 3 月 1 日発行　　発行人：秋尾晃正
日本民際交流センター　〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 518　司ビル 301 号
振替口座：００１５０－０－５７６６４　TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510
ホームページ：http://www.minsai.org/　Eメール：info@minsai.org
表紙：ウボンラーチャターニー県バン･カム･コム村　　撮影：冨田直樹 (民際スタッフ)　2005 年 5 月